



生涯学習課

ふるさとで誓う新たな決意

平成22年度庄原市成人式

平成22年度庄原市成人式が8月15日、庄原市民会館で開催されました。

今年の新成人は、平成22年4月2日から平成23年4月1日まで生まれた市内在住者および庄原市出身者で、290人が出席しました。はじめに、滝口季彦市長が「何事にも果敢に挑戦する勇氣と、感受性豊かな心を原動力に、自身の播るぎない信念と決意で、自分の人生を耕し切り開いてください」と新成人を激励しました。

新成人を代表して、栗久直樹さん(新庄町)が「今日の日を迎えることができたのも、家族や友人、地域の方々の支えがあったからこそ。今日のこの感激をこれからの人生に活かし、名実ともに成人になります」と決意を述べました。

記念行事では、庄原市ゆかりのシンガーソングライタージャンクフジヤマさん(本名/藤木直史さん)が「自分の夢にチャレンジして」とエールを送り、ミニライブで会場を盛り上げ、式に華を添えました。また、配布されたしおりの表紙は、庄原市出身のグラフィックデザイナーナトー坂井智明さんがこの日のため

にデザイン。しおりには中学3年生当時の担任の先生からメッセージが添えられており、新成人たちは自分の担任だった先生のメッセージを見つけては懐かしそうに読み返していました。

成人式終了後には、実行委員会主催で祝賀パーティーが催され、それぞれの近況を話しながら、懐かしい友人との再会を楽しみました。



新成人の決意を述べる栗久さん



祝賀パーティーを楽しむ新成人

会課
福祉課

恒久平和を次世代に継承

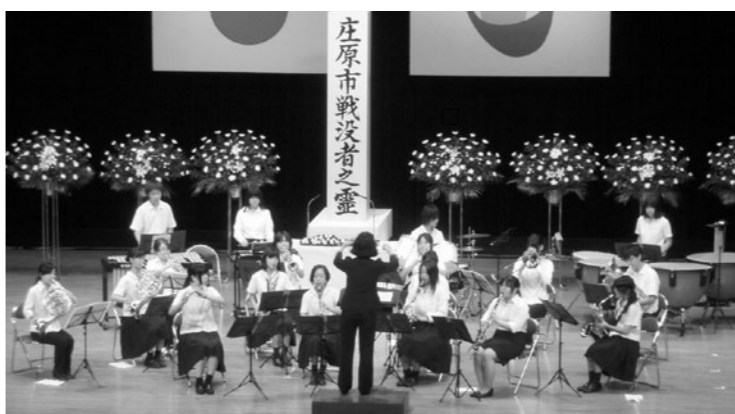
戦没者追悼式・平和祈念式典

戦没者に哀悼の意を表し、恒久平和を祈念する「庄原市戦没者追悼式並びに平和祈念式典」を8月24日、庄原市民会館で開催しました。遺族をはじめ小中学生など約600人が参列し、本市出身の戦没者2925人のめい福と平和を祈りました。

式典で滝口季彦市長は「戦没者の方々が命をもって示された戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、次世代にしっかりと継承するとともに、恒久平和の実現とふるさと庄



平和を祈り歌う東小学校児童



庄原実業高校吹奏楽部による演奏

原の更なる発展に向け全力を尽くす」と式辞を述べました。続いて参列者全員での黙祷、献花を行いました。追悼吟詠、東小学校児童の合唱、口和本の会による朗読、庄原実業高校吹奏楽部による演奏も行われました。会場には、恒久平和を祈る人たちの思いが込められた折鶴などが多数飾られていました。

林業課
農振

将来の農業経営者として期待

庄原市農業後継者育成事業奨励金認定証交付式

庄原市農業後継者育成事業奨励金認定証交付式を7月27日に行ないました。

7月12日の審査会を経て採択決定した、名越桂介さん、上田 誠さん(ともに東城町)に、滝口季彦市長から認定証が交付されました。二人は、広島県立農業技術大学校卒業後、東城地域に就農し、地域の活性化にも貢献したいと抱負を語りました。

本事業は、市内で新たに農業の専業経営を目指す、市内の農家・農業生産法人・広島県立農業技術大学校で1年以上研修を行った後、1年内に市内で農業専業経営を開始する方(50歳以下)に対して、研修期間中2年間を上限とし月額10万円を奨励金として交付します。



滝口市長から認定証を受け取る名越さんと上田さん

本市は農業を基幹産業と位置づけていますが、農業者の高齢化・後継者不足などの課題を抱えています。今後も引き続き同事業の募集を行い、持続的な農業振興、地域の担い手となる農業後継者の育成と確保に向けて取り組みを進めていきます。

高齢者課
福祉課

広がる認知症サポーターの輪

オレンジリングはサポーターの証

平成17年から全国各地で取り組まれている「認知症サポーター養成講座」は、市内でこれまでに約3800人が受講しています。昨年からは、小・中学校、金融機関などでも取り組まれるようになり、認知症に対する正しい理解とサポーターの輪が広がっています。

養成講座の受講者にはサポーターの証としてオレンジリングが配られ、手首に付けてもらっています。また金融機関では「認知症サポーターがいます」と書かれたステッカーを店舗入り口に貼り、サポーター宣言を行っています。

市は、認知症になっても住みなれた地域で、その人らしく生き生きと



認知症の説明を受ける東城中の生徒

城所
東支

帝釈の自然を学ぶ

第56回帝釈理科講習会を開催

第56回帝釈理科講習会を8月2日と3日、帝釈自治振興センターで開催しました。

生物学などの自然科学研究の場としてふさわしい国定公園帝釈峡を活用し、理科教育、生涯学習の推進と自然科学の研究をより深める

ことを目的として、昭和24年から毎年開催しています。

今年も、県内の教職員やこの講習に関心のある方83人が参加。

初日は、コイなどの淡水魚に関する講義を行ったあと、本物の淡水魚を使って、ヒレなどの魚の外形を直接計測する実習を行いました。間近で観る魚に、参加者たちは興味津々の様子でした。

2日目は「植物画―ボタニカルアートとは何か」と題し、野外で採取した野草を使って植物精密画を描く実習などを行いました。参加者は「図を描くことで植物の構造を勉強することができた」と話していました。身近な帝釈で自然を学べる機会として、今後もこの講習会を継続していきます。



コイとカジカを計測する参加者